

2014年度町田市教育委員会

第2回臨時会会議録

- 1、開催日 2014年 8 月25日
- 2、開催場所 市庁舎三階第二、第三会議室
- 3、出席委員
- | | | | |
|-----|---|----|----|
| 委員 | 長 | 佐藤 | 昇 |
| 委員 | | 岡田 | 英子 |
| 委員 | | 井関 | 孝善 |
| 委員 | | 高橋 | 圭子 |
| 教育長 | | 坂本 | 修一 |
- 4、署名委員
- 委員長
- 委員
- 5、出席事務局職員
- | | | |
|----------------|----|----|
| 学校教育部長 | 吉川 | 正志 |
| 生涯学習部長 | 田中 | 久雄 |
| 学校教育部次長 | 高橋 | 良彰 |
| (兼) 教育総務課長 | | |
| 教育総務課担当課長 | 有田 | 宏治 |
| 施設課長 | 岸波 | 達也 |
| 学校施設管理センター担当課長 | 桑原 | 一貴 |
| 施設課担当課長 | 横山 | 法子 |
| 学校教育部次長 | 田中 | 英夫 |
| (兼) 学務課長 | | |
| 保健給食課長 | 佐藤 | 浩子 |
| 指導室長 | 宮田 | 正博 |
| (兼) 指導課長 | | |
| 指導課担当課長 | 田中 | 利和 |
| 指導課統括指導主事 | 小林 | 洋之 |
| 教育センター所長 | 深沢 | 光 |
| 教育センター担当課長 | 黒澤 | 一弘 |

教育センター統括指導主事	中原明寿
小学校教科用図書調査協議会会長	宇田陽一
小学校教科用図書調査協議会副会長	山本弘明
小学校教科用図書調査協議会副会長	大泉永
書記	高橋由希子
書記	小泉宣弘
書記	田中みゆき
書記	谷山里映
書記	柴田典子
書記	川崎奈津美
速記士	帯刀道代

(株式会社ゲンブリッジオフィス)

6、提出議案及び結果

議案第40号	2015年度使用教科用図書(小学校)の採択について	原案可決
議案第41号	2015年度使用教科用図書(中学校)の採択について	原案可決
議案第42号	2015年度使用教科用図書(特別支援学級)の採択について	原案可決

7、傍聴者数 39 名

8、議事の概要

午前 10 時 00 分開会

○委員長 おはようございます。開会に先立ちまして、傍聴者の皆様にお話し申し上げます。

本日は教育委員会臨時会の傍聴のためにご来庁くださいまして、まことにありがとうございます。

皆様方には、先ほど担当の者からもお話をさせていただきましたが、円滑に会議を進めることができますようご協力をお願いいたします。状況によっては、その時点で私からもお願いすることがあるかと思いますが、その節はぜひご協力のほどお願い申し上げます。

なお、町田市教育委員会傍聴人規則第5条に基づき、会議中の撮影や録音は禁止となっ

ておりますので、これにつきましてもご協力をお願いしたいと思います。

それでは、ただいまから町田市教育委員会第2回臨時会を開会いたします。

本日の署名委員は井関孝善委員です。

それでは、「議案第40号 2015年度使用教科用図書(小学校)の採択について」を審議いたします。教育長より説明をお願いいたします。

○教育長 それでは、議案第40号についてご説明を申し上げます。「2015年度使用教科用図書(小学校)の採択について」でございます。

本件につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条並びに同法施行令第13条及び第14条の規定により、2015年度使用教科用図書を採択するものでございます。

2014年度におきましては、公立小学校の採択替えの年度に当たり、町田市立小・中学校教科用図書採択要綱に基づき、教科用図書調査協議会を設置し、採択に必要な事項を調査・協議いたしました。2014年度町田市教育委員会第5回定例会における本協議会からの報告を踏まえまして、教科用図書について採択するものでございます。

説明は以上でございます。

○委員長 教育長の説明につきまして、ご質問などありましたらお願いいたします。

(「ありません」の声あり)

○委員長 では、ここで、8月1日の教育委員会第5回定例会において、岡田委員が質問をされた「図画工作科の授業において美術作品の鑑賞指導がどのくらい行われているか」について調査協議会からご回答をお願いいたします。

○宇田小学校教科用図書調査協議会会長 この件のご質問につきましては、大泉副会長から説明を申し上げます。

○大泉小学校教科用図書調査協議会副会長 「図画工作科における美術作品の鑑賞指導がどのくらい行われているか」についてお答えいたします。

国内、国外の美術作品の鑑賞は、主に5、6年生で扱っており、年間で2時間から3時間程度です。鑑賞に当たっては、児童が作品を描いたり、つくったりする際に、参考作品として触れさせるなど、表現と組み合わせて指導することが多くなっております。

以上です。

○委員長 ご回答ありがとうございました。岡田委員、よろしいですか。

○岡田委員 ありがとうございます。

○委員長 それでは、各教科の採択に入りたいと思います。採択本の決定方法について、いかがいたしましょうか。

○教育長 採択の方法でございますが、実務的な部分でございますので、私からご提案申し上げたいと思います。

基本的に2011年の中学校の教科書採択、それから、前回の小学校の教科書採択の際にとった方法と同様に、無記名投票による方法がよいと思います。先般、8月1日の教育委員会第5回定例会の際に、教科用図書調査協議会からの報告は既に受けておりますので、その内容も踏まえまして、各委員が意見を述べて、そして投票するという形がよいと思います。

なお、これも前回と同様でございますが、教育委員は5名でございますので、投票の結果、過半数、つまり、3票以上を獲得すれば、その教科書が採択されるということになります。その投票数が過半数に至らなかった場合でございますが、例えば2対2対1のような場合は、2票を獲得した教科書会社2社で決選投票を行うということでよいと思います。また、2票を獲得した教科書会社が1社だけで、あとは1票ずつ獲得したものが3社、例えば2対1対1対1といったような場合でございますが、そのような場合は、まずは2票を獲得した1社を第一候補としておいて、残りの1票獲得の3社で再投票して、第二候補を決め、その後に、第一候補と第二候補で決選投票をするというように、いずれにいたしましても、過半数を占めるまで投票を繰り返すという方法でございます。

私からの提案は以上でございます。

○委員長 ただいま教育長から決定方法についての説明がありましたが、これについて何かご質問などありましたらお願いいたします。

(「ありません」の声あり)

○委員長 それでは、教育長からご説明いただいた採択方法についてご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長 ご異議なしと認め、無記名による投票方式に決定したいと思います。

教科ごとに審議をしていきますが、それぞれ各委員から意見を述べていただき、無記名投票で、これが最適と思うもの1つに丸をつけて投票するという形で進めていきたいと思っています。

それでは、国語の教科書から始めていきたいと思っています。投票に先立ちまして、各委員

から意見をお願いいたします。

○井関委員 今回の国語の教科書を見て、以前の採択で町田に縁のある八木重吉の詩の載っている教科書という市民の意見があったことを思い出しました。今回私が調べたところでは、前回より掲載数は少なくなっていますが、教育出版と光村図書出版の5年生に載っていました。

また、9月21日まで市民文学館で開催中の「1ねん1くみ1ばんサイコー！」展の童話作家「後藤竜二」、挿絵「長谷川知子」の作品が、学校図書の4の下巻に載っていました。作品が載っているということが、必ずしも町田市の地域性に合致しているというわけではありませんが、光村図書出版の5年生に「静かな焔」という4行の詩が載っています。

私は本に索引が欲しいといつも思っています。国語に索引というと、何を取り上げていいのかというようなことになりますけれども、多くの教科書で、学習で使う言葉あるいは授業で使う言葉として、索引というよりも、ミニ辞典という形で採用されています。光村図書出版においては、巻末の「学習に用いる言葉」というページで、各項目の出ている数字も記載されていますので、やや索引的な要素が見られます。

もう1つ、読書の感想文ですが、まず子どもがどう感じたかを取り上げる印象批評と、その前に文章を分析する分析批評があります。今回の図書では、東京書籍以外の4者が、4年生の初めのほうで、あまんきみこの「白いぼうし」を取り上げ、程度の差はありますけれども、4者とも分析批評的な設問をしています。東京書籍も、「白いぼうし」ではありませんが、他の作品の感想文で同じような分析批評をしているものがあります。場面ごとの登場人物、中心人物などを調べ、さらに、においや色も調べるときもあった、そういう分析批評は、暮らし方も変わるぐらい大きな影響を与えるものと考えています。中学校の新学習指導要領ですが、物語や小説などを読んで批評することという言語活動が出るようになりましたので、批評が普通になったのかもしれない。

以上が気がついたことですが、調査協議会報告の評価もよく、国語は光村図書出版がいいと思います。

○高橋委員 小学校に入学することにより、本格的に言葉の読み書きが始まる子どもたちに、しっかりとした国語教育を行うことは、その子の生涯にわたる生きる力や、またその子の人格形成に大きな影響を与えるものとして、国語は重要な教科として認識しています。

全ての教科は日本語を通して学ぶわけですから、学力の基盤としての確かな言葉の力を身につけられるような教科書、また人格形成をしていく中で、豊かな心を育み、日本人と

してのアイデンティティーを確立できるような教科書を選びたいと思い、調査研究してきました。

光村図書出版は全体的に大変バランスがとれている。読む、書く、話す、聞く、言葉、漢字等のバランスがとれていると思います。見開きページのレイアウトも見やすく、わかりやすいように考えられ、大切などころにはマークをつけたり、線で囲むなどして、ユニバーサルデザインの配慮も感じられました。読み物教材は、時代を超えて読み継がれてきた作品から現代の作品まで幅広くあり、よいと思いました。

次に、教育出版は、読み物教材に大変内容のよいものが多いと思います。小学校時代は心も体も大きく成長していくわけですが、そのような子どもたちの心を育み、人格形成時に読んで欲しいと思われる読み物教材を選んであります。言葉の力を育てると同時に、豊かな心を育てることができることは、現代の子どもたちにとって特に必要なものだと思います。この点において教育出版はすぐれていると思います。

また今回、5者共通でよかったのは、読書教育に力を入れているということです。どの教科書も本を数多く紹介してあり、本の内容を要約したり、また表紙の写真を載せるなど、子どもたちが本に興味を持てるように考えてありました。日本中の小学校の子どもたちが主体的に本を読み、図書館を活用するようになることを期待いたしました。

以上です。

○教育長 私は、国語という教科は、他の教科をはじめ、子どもたちの実生活にも大きく影響を与える教科だと思っています。そのために子どもたちの学習意欲とか関心を引き出す工夫、あるいは基本的な話すこと、聞くこと、書くこと、読むことという各領域についてのわかりやすい観点なり、目標の設定、そういったようなことを中心に見させていただきました。

その中で、光村図書出版については、写真や挿絵、あるいは図表などが突出してすばらしく、子どもたちに親しみやすいと感じました。また、單元ごとにはっきりした目標とか観点が明示されていまして、学習のポイントをあらわす印とか記号が使われていて、わかりやすいという印象を受けました。取り上げられている物語教材にも、保護者にも親しみのあるものがあって、家庭学習においても、親子での共通の会話が広がるのではないかといいことも思いました。

そういう意味では、東京書籍も同様に、子どもたちに身近な題材が多くて、写真や挿絵も、子どもたちの興味や関心を引くもので、導入段階ではとても有効なつくりになってい

ると感じました。

以上でございます。

○岡田委員 私は、国語の教科書に出ている教材数が余り多過ぎず選択されているものが多いと考えました。それから特に読み物のほうですが、家庭で音読をしなさいと先生方がおっしゃることが多いと思いますので、そうしたときに親御さんなり祖父母の方なり、家庭の方が子どもの読んでいるのを聞いて、そこで感想が出て、親子のコミュニケーションができたり、またそれが家庭教育、家庭学習につながっていくような教材が多いといいなと考えます。そうした意味では、私たちの世代からずっと伝統的に使われている読み物が適当に入っているというのも1ついいことであると思います。光村図書出版は、そういう意味で言うと、定番の教材がかなり多いと思いました。

それから、三省堂は分冊になっているので、扱いにくいのではないかという声も協議会の報告であるのですが、確かに難しい点はあるかと思うのですけれども、中に出ている作品が大変ユニークで、改めて読みますと、例えばレオ・レオニでは、「スイミー」を掲載している教科書会社が多いのですが、ここでは「フレデリック」を取り上げています。「フレデリック」というのは大人が読んでも大変考えさせられるようなお話ですし、「フレデリック」以外にも、大人が読んでみて、いろいろなことを考えるような、子どもたちと一緒に考えることができるような作品が多く載っていたのが印象的でした。

それから、学校図書は、導入が大変ゆっくりしている教科書だと思います。どういうことかという、1年生の上巻で字が出てくるまでにかかなりのページ数があります。それは東京書籍も同じですが、ゆったり始まって行って、子どもたちが今1年生で大変だという時期は、文字を急に詰め込まないで済むのかなという感じがいたしました。

また、学校図書は、印刷の色が優しい。それから、教科書の紙面に余りいっぱい情報があると、そこで子どもたちが、そちらのほうに気をとられてしまいがちなと思うのですが、詩や読み物など、心を動かす教材のところ、余白がたっぷりあってあると、子どもがそこで心を動かす余裕があるかなという感じがいたしました。

光村図書出版は、読み物以外のところ、読書活動とか、発表をしようとか、そういったところで、非常に極端に言うと、パソコンの画面に近いぐらい図や資料が使い込まれているので、高学年にはいいのかもしれないのですけれども、低学年の子たちにとっては、若干読みづらい部分もあるのかなと感じました。

それぞれ一長一短があると思うのですが、町田は、対象になる学校数が42校と大変多い

ので、その全ての学校にこの教科書がふさわしいかどうかというところでは、三省堂さんは少し考えるところがあります。私は学校図書がいいかなと考えました。

○委員長 私からも意見を述べさせていただきたいと思います。私の意見は、国語に限ったことではないのですが、2点お話をさせてください。

1点目は、言うまでもなく授業は教員の手によって進められ、授業のよしあしは教員の指導力によって左右されるものだと思います。教員は、教科書を使いながらも、さまざまなほかの教材も用意して、授業の展開をいろいろ工夫して、子どもたちに必要な学力をつけていくということをやっていると思います。すなわち、私は、教員は教科書を教えるというよりは、教科書を使って授業を進めていく、こういうことだろうと考えておりますので、委員の皆様にはこのことを念頭に置いて、ふさわしい教科書を投票していただければと思います。

2点目は、1点目の考え方と関連していることですが、教科書を使うのは教員であるということから、教員が使いやすい教科書であることが望ましいのではないかと思います。先日の教育委員会第5回定例会で、調査協議会から報告をいただいたところですが、これは学校関係者による調査結果のまとめであり、この報告内容は十分に尊重されるべきものと思います。

各委員の皆様には、ぜひこうした2つの観点を確認された上で、町田市立の小学校の教科書としてふさわしいものを選択し、投票していただきたいと思います。

ほかに何かご意見はありますか。――それでは、それぞれご意見をいただきましたので、これから投票に入りたいと思います。事務局より投票用紙を配付いたしますので、投票をお願いいたします。投票は、最も適していると思われるものを1つ選び、投票用紙に丸をつけてください。事務局が回収して集計いたします。

(投票)

○教育総務課長 では、集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍1票、学校図書1票、教育出版1票、光村図書出版2票。以上でございます。

○委員長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、過半数の3票を獲得した発行者はございません。したがって、1票獲得した東京書籍、学校図書、教育出版の中から1者を選び、その1者と、2票獲得しました光村図書出版とで再投票して決定したいと思います。それでは、東京書籍、学校図書、教育出版の中から1者を選ぶ投票を行いたいと思いますが、ここで何かご意見がございましたらお願いいたします。――よろしいですか。

では、投票をお願いします。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍 2 票、学校図書 2 票、教育出版 1 票。以上です。

○委員長 ただいまの発表のとおり、東京書籍 2 票、学校図書 2 票、教育出版 1 票ということで、東京書籍と学校図書が 2 票で同数でしたので、再度この 2 者で投票を行いたいと思います。改めてご意見はありますか。

○岡田委員 先ほど井関委員から索引というお話がありましたが、学校図書の巻末には、授業で使う言葉というのが資料として入っていて、小学校では、「めあて」とか、あまり使ったことのない言葉をたくさん使われるような経験を、保護者のほうでもいたしますので、そういった意味では、先生も使いやすいし、子どもたち、それから保護者にもそういったところがわかっていいかなと思います。

○委員長 ほかにございますか。――それでは、投票に移ります。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍 3 票、学校図書 2 票。以上です。

○委員長 ただいまの発表のとおり、東京書籍 3 票、学校図書 2 票ということになりましたので、東京書籍と光村図書出版で最後の投票を行いたいと思います。何かご意見はございますか。よろしいですか。――では、投票をお願いいたします。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍 1 票、光村図書出版 4 票。以上です。

○委員長 ただいまの報告のとおり、光村図書出版が 4 票と過半数を得ましたので、国語は光村図書出版に決定したいと思います。

続きまして、書写に移りたいと思います。投票に先立ちまして、各委員から意見をお願いいたします。

○井関委員 字が下手で汚い私が言うのもおかしいかもしれないのですが、書写に関し、前回の小学校使用教科用図書採択で述べた意見を再度述べさせていただきます。

学校訪問で教室を回ると、鉛筆の持ち方のひどい子が大変多いのに気がつきます。小学校での授業参観の後の協議会では、毎回、鉛筆の持ち方は就職や結婚などを左右するぐら

い影響が大きいので、模範的な鉛筆の持ち方の写真か図を低学年の教室に貼ってはどうかと提案してきました。

これまでに町田市の小学校 42 校全部回ることができました。そのとき、鉛筆を親指、人さし指、中指の 3 本で支えるといいと説明しています。指 3 本で三角形をつくるのが重要なのですが、今までは鉛筆の模範的な持ち方を横から撮った図、写真が多かったのですが、今回は 4 者が 3 本指を取り上げてくれていて、うれしくなりました。

光村図書出版は 1、2 学年だけではなくて、5、6 学年にも載っています。私の推奨する方法は、指 3 本の指先を自分に向けて、3 本の指先の上に三角形の空間をつくり、そこに鉛筆の先を差し込み、3 本の指先が下に向くように鉛筆を持った手をぐるりと反すというだけの簡単な方法なんです。2 年の教科書では、この方法に近い方法を取り上げた分解図が載っています。さらに裏表紙の裏、つまり、最終ページには、3 本指三角形を使って「できているかな」のチェックが載っています。協議会報告書の評価がよく、また、今述べたことは、書写という教科の小さいことかもしれませんが、重要と考えるので、光村図書出版を勧めます。

○**教育長** 書写については今回 6 者あるわけですが、いずれもさまざまに工夫されていて、内容的に大きな差異はないというような印象を持っております。ただ、そのような中でも、今、井関委員からもお話がありましたが、光村図書出版と日本文教出版の鉛筆や筆の持ち方等の解説がとても丁寧で、学習の進め方から、用具の片付け方まで、カラー写真をところどころ使いまして、わかりやすく書かれていると感じました。

以上です。

○**岡田委員** 今お話しされたことに加えて、鉛筆の持ち方に関しては、一番最初、1 年生のところで写真が大きくて、視覚的に非常にアピールをするのは、東京書籍と三省堂の教科書だったと思います。大変大きな写真で紹介しているので、子どもたちにはわかりやすいかと思いました。

また三省堂は、それ以外のところで大変よいと思ったのが、ポスターの内容であるとか、そうした本当に子どもたちが実際に書きそうなことを扱ったさまざまなお手本が示されている点です。

日本文教出版は、字が大変きれいだと思います。ほかの会社は、ます目に入っている硬筆の文字を見たときに、実はちょっと違和感がありまして、向きが少しばらばらなのではないかと感じたのですが、日本文教出版は非常にそろったきれいな字だったというのが

印象に残りました。

○高橋委員 今日、情報化が進展するに伴い、筆記用具を使って文字を書くことが少なくなってきました。今を生きる子どもたちは、将来ますますそのような傾向にあると思います。私は、そういう時代だからこそ、国語科の書写はとても大切な教科であると思います。

小学校低学年では、書くときの姿勢や筆記用具の持ち方、基本的な点・画の書き方を、硬筆を使用して学習しますが、どのようにしたらよいのか、写真等でしっかり子どもたちにわかりやすく示したものが教科書としてふさわしいと思います。

また、中学年からは筆圧、高学年では穂先の動き、点・画のつながりなど、毛筆を学ぶことにより、文字を書くときの微妙な感覚を学びます。毛筆だからこそ、より微妙な感覚を学べ、毛筆で培われた文字感覚が硬筆へと生かされ、文字を正しく美しく書く能力へとつながっていきます。ですから、中学年以降は、毛筆の指導に力を入れた教科書がよいと思います。そういう観点で教科書を選びたいと思い、調査研究いたしました。

低学年の文字を書くための基礎・基本がわかりやすいのは、姿勢については、三省堂以外の5者が写真入りで大変わかりやすく、鉛筆の持ち方は、光村図書出版と教育出版がより詳しく説明され、わかりやすいと思います。硬筆の場合、上下よりも手本の文字が左側にあり、それを見ながら右側に書けるようになっている教科書がよいと思われませんが、光村図書出版や東京書籍がそのようになっていました。

毛筆は、まず毛筆を使うことが初めてということが考えられますので、道具の取り扱いの説明が詳しいものがよいと思います。光村図書出版だけは、大筆は墨を拭き取った後、水で洗うように指導してありましたが、他の発行者は、よく拭き取るかまたは洗うということでした。私は、大筆はきちんと水で洗う必要があると思います。

毛筆の指導は、学校図書が、導入、展開、まとめとパターン化されていて、初めて習う子どもにはわかりやすく、その上にお手本のほとんどが半紙大になっており、そのようなお手本は合計17枚あり、他の発行者に比べても群を抜いています。毛筆の手本は、文字の形や大きさをまねやすい半紙大がよいと思います。

以上のことから、光村図書出版と学校図書の2者のものがよいと思われました。

以上です。

○委員長 ほかにございますか。よろしいですか。——それでは、これから投票に入ります。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

学校図書1票、光村図書出版2票、日本文教出版2票。以上でございます。

○委員長 ただいまの発表のとおり、過半数の3票を獲得した発行者はございません。したがって、2票獲得した光村図書出版と日本文教出版で再投票を行いたいと思います。何かご意見はありますか。――では、投票用紙をお願いします。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

光村図書出版3票、日本文教出版2票。以上でございます。

○委員長 ただいまの報告のとおり、光村図書出版が3票と過半数を獲得しましたので、書写は光村図書出版に決定いたしました。

続いて社会に入ります。まずご意見がございましたら、お願いいたします。

○井関委員 協議会の報告書を拝見しますと、東京書籍は「問題解決的学習の『つかむ・しらべる・まとめる』の構成が確立されており、具体的な学習活動を呈示してある」とあります。6年上の教科書を見てみますと、16から17ページの「学習の進め方」として説明されており、以後の教科書のページの各所に、例えば「つかむ」という項目が出ています。他の学年でも同じです。さらに、ほかの会社の教科書でも、教科書の使い方、あるいは教科書の仕組みというような感じで、学習の仕方を示しています。

東京書籍の6の上は、日本の歴史分野である関係もありますが、歴史学習の基本を押さえようと、6ページにわたる「てはず」、「方法」が述べられています。具体的には年表の見方、身近な歴史を見つける、歴史博物館に行くなど、豊富な写真を示しています。これらのことから、報告書の評価内容がわかります。

再度、索引についてですが、前は2者しか索引がなかったのですが、今回は4者に増え、よいことはすぐ取り入れようということではないかなと思います。

この場で言うと、委員長に叱られそうですけれども、教科書は、1つの会社でも、社会では6冊、国語では十何冊ぐらいになって、それが会社ごとの箱に詰められて届けられます。教科書を見るたびに箱から出して入れるのに、箱の厚さ、サイズがぴったりで、きつくて大変苦勞します。そのため、あるときは、紙で手を切ってしまったくらいです。教科書会社さんには、ぜひ箱の厚さに余裕を持っていただきたいと希望します。

話を戻しまして、東京書籍は5、6年の索引で、事柄と地名に分け、さらに6年上巻は

歴史なので、事柄と人名になっています。一方、教育出版は、全学年、事柄、地名などの区別なく、索引としています。

結論としては、採択には関係なかったのですが、私は、鎌倉幕府は「イイクニ」、1192年に始まると覚えていたのですが、最近はそのより前という説が強くなって、中学校の教科書では、源頼朝が征夷大將軍に任命された1192年を鎌倉幕府の始めとしないものがあります。今回は4者とも「イイクニ」で右へ倣えでした。次回の中学校の教科書の採択では変わってくるかなと推測します。

使い方としては、東京書籍の図には、全部ではないのですが番号がつけられています。

一方、教育出版は、番号ではなくて、アイウエオで順序づけられていましたが、見やすいと思います。以上のことから、町田の中学生には東京書籍がよいと思います。

○委員長 先ほど井関委員がご心配されましたけれども、不適切な発言だとは思いますが、傍聴の方にはわからない話だったかもしれません。ご了承ください。

ほかにご意見はございますか。

○高橋委員 子どもが社会科を学ぶ中で、自分は社会の一員としての自覚を持ち、よりよい社会づくりに自ら積極的に関わっていこうという意欲や態度が育っていくような教科書を選びたいと思い、調査研究してきました。

これからの社会には、少子化、高齢化、グローバル化、地球温暖化、またエネルギー問題、環境問題など、これまでに人類が経験したことのない数々の問題があります。それらの問題を自分自身とのかかわりで主体的に考え、取り組んでいこうとする姿勢をぜひ身につけてほしいと願います。

その点において、東京書籍は、学習の導入段階で問題提起があり、問題解決学習がわかりやすくできていく教科書だと思います。「つかむ・しらべる・まとめる」という学習段階がはっきり表示された紙面となっていて、子どもにとっても、指導者にとっても、大変学習を進めやすく、わかりやすいと思いました。また、さまざまな仕事や社会活動に携わる人々の姿を、「〇〇さんの話」として数多く取り上げてあり、さまざまな人が社会をつくっていることがよくわかると思います。

4者それぞれが各地の事例を挙げ、具体的に学んでいけるようになっています。教育出版は、特に町田市近辺の事例が多く、児童にとっても親しみやすいと調査協議会での報告がありましたが、副読本の「わたしたちの町田」を学ぶということもあり、事例地につい

ては、特に学習には支障がないということですので、私はやはり東京書籍がよいと思っています。

以上です。

○教育長 各発行者それぞれに特徴や工夫があるわけですが、私は、子どもたちが、それぞれ自分が社会の中でどのように位置しているか、かかわっているか、社会に関心を持つ、あるいは社会について考えるきっかけになって欲しいという観点から見させていただきました。

そういう観点の中で、導入段階での工夫や、学習方法のポイント等をわかりやすく工夫、解説して提示しているのが教育出版と東京書籍だと感じています。

それから、今、高橋委員からもお話がありましたが、社会科で取り上げている地域というのは、各発行者とも全国さまざまな地域を取り上げているわけですが、教育出版では、3、4年生の教科書の中で、町田市そのもののごみ収集の仕組みと、その写真や資料、職員の話などを18ページにわたって掲載しておりまして、このことは子どもたちにとって大変身近で親しみやすいのではないかと考えております。

以上でございます。

○岡田委員 今までおっしゃっていただいたことと加えて、もう1つ、女性の社会進出といったことについて見ていきますと、光村図書出版と教育出版は、歴史上の女性についての記述がほとんどありません。特に教育出版の場合は、社会の中で女性が家を守るイメージが強いような気がいたします。

もう1つ、先ほど委員長からも、教科書というのは、先生が教室で教えるということであるのですが、最近の教科書は吹き出しが大変多い。言ってみれば、通信教育教材に近いのではないかというぐらい、吹き出しのあるものが多いです。そういった意味で言うと、東京書籍もかなり吹き出しが多いです。吹き出しがない発行者はないのですけれども、少し多過ぎるかなという感じがしました。

私は、春にトルコに行ってきたのですが、トルコのトプカプ宮殿というところで子どもたちに囲まれて、「ジャパン？」と言われたので、「そうよ」と言ったら、一緒に写真を撮ってくれと言って、まるでクラス写真のように、子どもたちが一緒に撮りたいと言って集まってきてくれるほど、トルコという国は大変親日的な国です。本当に身をもって感じたことなのですが、あの遠い場所にある国が大変親日的であるということはとても頼もしいことで、このことは子どもたちに知っていて欲しいなと思いました。

その原因が何かというと、トルコの小学校ではエルトゥール号について学んでいるからだということも聞きました。そうして見ると、エルトゥール号についての記述があるのは、日本文教出版社と東京書籍です。日本文教出版社は、女性の社会進出や活躍について比較的多く述べてくださっているのですが、東京書籍は、エルトゥール号との関連から、その後の日本とトルコが大変親しい国であるということが、特集のようにして巻末で取り扱ってあります。大変心強いと思いました。

もう1つ付け加えますと、市役所そのほかの場所で見本本を公開していたときの市民の方からのアンケートの中でも、日本の国に誇りを持てるような教科書を選んで欲しいというご意見をいただいているのですけれども、そうした意味でも、日本がトルコと大変親しい関係を持っているというのは、日本にとって誇りを持てるようなことではないかと思えます。

○委員長 各委員の意見でそれぞれ興味深いところが私もありました。それは教科書に取り上げている地域の特徴とその問題です。調査協議会からの報告によれば、東京書籍は、事例として全国のさまざまなところを取り上げている。教育出版は、先ほど教育長からもありましたように、町田市近辺の事例が多い。光村図書出版は、5年生の事例として挙げている場所が、町田市の児童の見学先と一致している。そして日本文教出版社は、事例として取り上げているところは関西が多い。これらの地域の取り上げ方について、一般化して教えたほうがいいのか、それとも身近なところを教えたほうがいいのかというところは、恐らく意見の分かれるところだろうと思います。各委員の意見がちょうどいろいろな立場から出ましたので、ぜひお考えの上、投票していただきたいと思えます。

ほかにご意見はございますか。――それでは、投票に入ります。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍3票、教育出版1票、光村図書出版1票。以上です。

○委員長 ただいまの報告のとおり、東京書籍が過半数3票を獲得しましたので、社会は東京書籍に決定いたしました。

続いて地図に入ります。各委員からのご意見をいただきたいと思えます。

○井関委員 以前の採択で、印刷上見やすいかどうかというのが問題となって、それより前の地図帳から変わった経緯があります。今回の印刷の見やすさですが、各地方をあらわす100万分の1の地図で、地の色合いを比較しますと、帝国書院では淡くて明るく、特に

中部地方の山岳地帯を見るとわかりますが、高いところだけ濃い茶色とし、山の高低がはっきりし、地名も地の色に隠れず、見やすくなっています。これは大きなメリットだと思います。

また、地域に関係することですけれども、あとは現在使用中の教科書では、町田のことが載っている詳細図がありますが、今回は東京書籍が、東京の近郊図として、都内 23 区を拡大したものを採用した結果、町田が載らないことになりました。

一方、帝国書院は、現行と同じで、野津田公園、この地図では、「ノツダ」と振り仮名がありますが、公園のホームページでは「ノツタ」とあって、難しいですね。あと、薬師池公園、町田リス園まで載った鳥瞰図が採用されています。

地図帳の使い方については、東京書籍 4 ページ、帝国書院 6 ページで、両者ともそこで索引の使い方を示しています。索引そのものは、東京書籍の地図帳のサイズが大きくなっただけに、活字のポイントも大きく、中学校の地図帳と同じく、索引は東京書籍のほうが見やすいと思います。

おもしろいのは、帝国書院の初めのほうにある都道府県名を入れた地図が 2 枚あって、1 枚は普通の県名が入り、もう 1 つは、番号だけで白地図になっています。そして線で結んだ先に、各県の名前と名所の写真が載っています。県名を覚えてもらうにはすぐ活用できるかなと思います。今回は帝国書院の地図帳がいいと思います。

○岡田委員 2 者比べまして、東京書籍は比較的関西地方に重きが置かれているように感じました。帝国書院のほうが、東京都がしっかりと見られると思います。具体的に言いますと、例えば羽田空港の新しい滑走路が一番先までちゃんと入っているのは帝国書院のほうで、町田市あたりですと、羽田空港を利用することも多いかと思いますので、子どもたちにもそこがちゃんと見られて、多摩川の長さがどこまであるのか確認ができるのはいいかなと思います。

もう 1 つ、帝国書院がいいところは、世界地図のところが大変長くなっているところです。私は子どものころ、太平洋が真ん中にある地図をずっと見て育ちましたので、海がつながっているというよりも、何となく切れている感じがしたので、世界一周をした大航海時代の英雄たちがすごいことをしたというところがピンとこなかったという経験もあります。帝国書院のあの長い地図は、くるっと丸めると、「あっ、地球は丸いな」ということを実感することができるような地図になっているので、グローバル社会に育つ子どもたちにもそちらのほうがいいのではないかと思います。

○**教育長** 二者択一ということで迷うのですけれども、帝国書院の地図帳というのは、教科書と同じサイズで、パッと見ると見にくいのですが、むしろ情報量が多くて、地図上で使用している独自の記号が少なく、一般的な記号を用いていますので、使い勝手がいいだろうと思われます。また、町田市周辺や東京都の情報も豊富で、これは発展的な学習にも、あるいは中学、高校へ行っても使えるのではないかと感じているところです。

以上です。

○**高橋委員** 東京書籍、帝国書院、それぞれによいところがあり、本当に選ぶのが大変なんですけれども、初めて地図帳を使うという観点からは、私は東京書籍のほうが、地図も大きくてわかりやすい。黄色の部分だと両者に差があるのですけれども、全体的に色合いが目に優しく見やすいと思います。今後、中学生になると、中学校の学習に沿った内容のより本格的な地図帳を使うわけですから、小学生のための入門期の地図帳としては、子ども目線に立ってつくられた東京書籍のほうがよいと思いました。

以上です。

○**委員長** 委員の皆さんにちょっと伺いたいのは、教科書の大きさが、東京書籍は大きくて、帝国書院はほかの教科書と同じサイズですが、この大きさに関して、もし何かご意見とございますか、感想がありましたら、参考までに聞かせていただきたいのです。

○**岡田委員** 私は、子どもたちが机の中の整理整頓、あるいは家の自分の学習スペースの周りの整理整頓をするということを考えると、教科書の大きさは、ばらばらではなく、なるべくそろっていたほうがいいのではないかと思います。

○**井関委員** 私は、サイズはさして心配してないのですが、ランドセルに入るかというのを聞きしたことがあるのですけれども、一応入る。入るけれども、机に入れると、本が1冊なら入るのですけれども、何かいろいろなものと一緒だと、机から出るというようなことを言われたことがありました。一番最初は両者B5だった。それが、どっちかが大きくしたので、こっちも大きくして、だんだん大きくなっちゃったのですが、さっき言ったみたいに帝国書院の地図帳がいいという結論の中には、A4でも、A4変形でもいいのではないかなと思っています。

○**委員長** お聞きしたものですから、私の意見を述べさせていただきますと、私の年齢のせいだと思いますが、なぜか自分の小学生時代、中学生時代、地図帳というと、何か1つ大きかったイメージが残っていますし、また最近、目が悪くなったせいか、大きいほうが見やすくいいなという印象が、この2者を比べていて感じたところです。いろいろ大き

さで不都合があるのか、都合がよいのか、今皆さんからお伺いしましたので、投票までの間にちょっと考えます。

ほかにご意見はございますか。――それでは、投票をお願いいたします。

(投票)

○**教育総務課長** 集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍 2 票、帝国書院 3 票。以上です。

○**委員長** ただいまの報告のとおり、帝国書院が過半数の 3 票を獲得いたしましたので、地図は帝国書院と決定いたしました。

続いて算数に移ります。まず各委員からのご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○**井関委員** 学校図書は 6 年に別冊がありまして、小学校 6 年間のまとめと「中学校へのかけ橋」として、発展的な内容ですが、負の数などに 21 ページにわたって触れています。ここにはありませんけれども、中学校の教科書では、目次の前後に、小学校との違い、中学校の教科書の使い方などが書かれた後、正負の数の章があって、日本あるいは世界の気温で、中学校数学への導入をしていますので、余りギャップを感じさせないような思いやりだと思います。

小さいことですが、気がついたことを 1 つ。2 年生で、物差しで長さを計る学習がありますが、どこもはがきの長さを計る例が載っています。学校図書では 2 年上の 77 ページでグラフ用紙の上に本を載せています。わかりやすいということなのですが、どうせならこれは載っている教科書の見本を使えばいいのにと余計なことを考えました。実際の教科書の一部を示して物差しを扱っている例が、大日本図書 2 年、47 ページにあります。

協議会の報告によりますと、筋道を立てて考える力を伸ばすとありますが、算数ではこれは必須のことだと思います。町田市の授業力向上のために取り上げられている協同的探究学習に適したものだと思えます。

以上から、私は学校図書がいいと思います。

○**高橋委員** 今、井関委員からも協同的探究学習ということが出てきましたが、町田市では学力向上推進プランにおいて、「できる学力」とともに「わかる学力」、つまり思考力、判断力、表現力を高めることを掲げ、そのために協同的探究学習を取り入れることを提案しています。

子どもたちが算数を学ぶに当たり、「できる学力」、つまり、基礎・基本の確実な定着は

一番に求められるものであり、その上で子どもたち同士の学び合いである協同的探究がなされていくような教科書を選びたいと思います。そのような観点で教科書を見ていきますと、6者とも基礎・基本の部分はきちんと学べるものです。

協同的探究学習では、単元の導入で、なぜ、どうしてという問いや、やってみたいという意欲を持たせる問題場面が示されていることが大切であるということですが、その点では、東京書籍と学校図書がよいと思います。協議会報告書では、学校図書は、筋道を立てて考える力を伸ばすことが意図的に組み込まれた内容になっていると書かれていました。算数では、井関委員もおっしゃいましたが、論理的な思考ができるようになることは大変重要なことだと私も思っております。

また、両者ともにノート指導が詳しく載っていました。ノートは板書を写し取るだけでなく、自分の思考のプロセスを自由に表現し、その中で深めていくことや、ほかの人の考え方も書いて、自分との違いを知るなど、算数では、特にノートの使い方は大切にして欲しいと思っています。ほかにも大日本図書、教育出版、啓林館、日本文教出版も、ノート指導が載っていましたが、東京書籍の「マイノートをつくろう」は、ノート指導がとても丁寧で大変よいと思いました。

以上です。

○教育長 私は、算数というと、一度わからなくてつまずいてしまうと、次に進む意欲がなくなってしまって、またそれを取り戻すにもなかなか難しい教科だと思っています。ですので、子どもたちの学習への興味を引き出す工夫とか、それを継続させる工夫があるかといったような観点で見させていただきました。

そういう観点の中では、導入段階や振り返りの段階などで、写真とかゲーム、あるいはクイズ等を使って、さまざまな工夫が感じられましたのが、学校図書、東京書籍、教育出版といったところがすぐれているのではないかと考えています。中でも学校図書では、「学びの準備」というページなどがありまして、課題解決学習を進めやすくなっていることから、これは先ほど来お話が出ておりますが、町田市の学力向上推進プランの中で取り組んでいる協同的探究学習にも合致するものだと考えられます。

また、「中学校へのかけ橋」というような別冊があるのですが、これは中1ギャップへの対応という意味でも、よい工夫だなと感じています。

以上でございます。

○岡田委員 今までお話しされたいろいろな意見と同じなんですけど、東京書籍というのは、

1年生の一番最初から丁寧に進んでいく教科書だと思いました。「まとめのページ」、「ノートにかこう」というようなところがあって、手取り足取りという感じで、大変丁寧な教科書であると思いました。目次も東京書籍が一番工夫をされていると思います。

それから、日本文教出版は、コラムのところで、数学の発展というか、歴史的な、例えばメビウスの帯とか、地球の重さをはかるとか、そういったことがコラムとして入っていて、子どもたちの関心を引き出すという意味ではおもしろいなと感じました。

啓林館は、実生活の中で、算数あるいは数学的な考え方がどういうふうにかかされていくか、そこにつながっていくように思いました。啓林館は、協議会の報告でも、演算決定の理由とか、数学的考え方が使えるような工夫がされているという評価がありますので、そうした面では啓林館はいいのではないかなと思います。

それから、井関委員と坂本教育長からお話がありましたが、「中学校へのかけ橋」というところでは、中学生に数学を教えてみると、正負の数がわからなくて、まずここでつまづく子が大変多いという実態があります。そうした意味では、学校図書が、そのところを小学校のうちにヒントとして少し与えていてくれて、それが中学につながるというのは、町田の子たちには大変ありがたいことかなと感じます。

○委員長 私も意見を述べさせていただきます。今、町田市では、協同的探究学習に取り組み始めておりますが、この学習の展開は、教師の指導力によるところが大きくて、教科書によってさほど影響はないだろうと私は見えています。したがって、協同的探究学習にどれがふさわしいかという観点は、私は持ち合わせておりません。

東京書籍につきましては、調査協議会からの報告の中に、単元導入時に既習事項の定着度を確認できる点や、上下巻の同領域のつながりがわかりやすい点から、系統性を意識し、弾力的な指導計画が立てられるようになっていると報告されておりますが、弾力的な指導計画が立てられるというところは、教師にとって大変よいことではないかなと私は思っております。

ほかにご意見はございますか。――それでは、投票に入ります。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍 1 票、学校図書 4 票。以上です。

○委員長 ただいまの報告のとおり、学校図書が 4 票と過半数を得ましたので、算数は学校図書と決定いたしました。

続いて理科に入ります。まず各委員からの意見をいただきたいと思います。

○井関委員 今回の教科書に共通して言えるのは、どこも写真が豊富で、町田市内の場面もたくさん見受けられます。学校名が書いてあるわけではないので、落ちがあるかもしれませんが、すぐわかった例を示します。

大日本図書では、4年生で、小山小学校と思われる屋上の太陽電池、5年生では小山中央小学校の校舎と校庭の写真を、晴れと曇りで各1ページずつ使い、天気の違いの様子を示しています。

一方、教育出版の4年では、町田第一小学校の校庭に雨が降ってできた水たまりと、それがなくなった写真が、これも大きく2ページにわたって載っています。もう1枚、同じ4年生で、町田第一小学校と思われる学校で、子どもたちが大きな風船で遊んでいる風景があります。前にも述べましたが、写真が載っているから地域性が大きいというわけではありませんけれども、同じ町田の小学校という意味でなじめるかなと思います。

あと、ごくわずかの記述の教科書もありますけれども、中学へのつなぎのために、中学校で何をやるかというようなことがほとんどの教科書に書かれています。特に教育出版は、2ページにわたって、中学校の第1分野と第2分野の項目名、それに関連する図面が発展的な内容の扱いで載っています。大体の教科書が問題解決学習、つまり、児童が自分たちで考え、仮説を立てて、調査・確認をする学習を意識しているようですが、協議会報告書の大日本図書の評価を見ますと、仮説や考察の扱いを強調し過ぎないため、主体的に、自ら学び方を習得できるよう配慮されているとありますので、若い先生方もご自分の力を発揮できるのではないかなと思います。この辺は重要な評価だと思いますので、大日本図書を推します。

○教育長 理科に対する子どもたちの興味とか関心を引き出したり、実験等に際しての安全性の確保とか注意すべきところなどの扱い方の工夫というのは、各発行者ともしっかり押さえられていると思っています。そういう意味では、各発行者拮抗している状況ということが言えると思いますけれども、井関委員が今おっしゃったことと同様なんですけど、調査協議会の報告にもございますが、子どもたちが自ら課題を発見して、その課題の解決に主体的に取り組ませるという観点では、大日本図書が、仮説や考察の扱いを強調し過ぎずに、変に解説に誘導されないとか、むしろシンプルで、より子どもたちの主体的な取り組みに配慮した書き方になっているなと感じております。

以上でございます。

○岡田委員 本本当に各発行者それぞれ工夫されていて、写真も大変きれいで、よかったですと思います。写真で言うと、やはり大日本図書が一番きれいだと思いました。それから、大日本図書に関しては、季節の移り変わりというところの単元があるのですが、横浜市の写真が使われていて、子どもたちが実感しやすいかなと思いました。他の発行者で、季節の移り変わりのところで、青森県、四国の松山市、沖縄の写真ですと、季節の実感として、町田の子どもたちには少し違った感じが出てくるのかなと感じました。

また、実験道具の使い方、実験のやり方についてというところの説明で、巻末にまとめである出版社と、その単元のところに一緒に書いてあるものと、2通りあったのですが、これに関しては、多分、先生方が指導されるときには、一々巻末をめくらせるよりは、その場を書いてあったほうが授業がスムーズに進むのかなと思います。

そうしたところで言うと、大日本図書が、実験の仕方、観察の仕方についての表示が大変わかりやすかったと思います。ただ、大日本図書の場合、どうなるだろうかという問いかけのすぐ後に、ヒントが出ているので、子どもたちが考える暇がないかなというのがちょっとありました。

啓林館は大変センスのいい教科書だと思ったのですがけれども、巻末というか別冊で、「わくわく理科プラス」というのが入っていて、ただ、これが果たして授業で使いこなせるのかなという心配が少しありました。

○高橋委員 理科は、子どもたちの科学的な見方、考え方を養うために、知的好奇心や探究心をかき立てるような資料となる写真が多いなど、見た目美しくわくわくするような教科書がよいと思います。

また、子どもたち同士が実験や観察をしていく中で、主体的に学べ、問題解決へと導かれるような構成がわかりやすく確立されている教科書を選びたいと思います。

そのような観点から見ていきますと、大日本図書と学校図書がよいと思われれます。大日本図書は、「理科の玉手箱」という理科への興味を引きつけるようなコラムが多数掲載されており、また「ジャンプ」というコーナーでは、発展的な内容が多数掲載され、特に6年生では、中学校への学習へのつながりが意識してありました。子どもたちの興味・関心を引き出していくわくわくするような教科書になっていると思いますが、余りにも情報がたくさんあるページもあって、少し見にくいところもあるのかなという心配はありました。

学校図書は、学習の流れが紙面両サイドに示され、学びやすい構成になっており、問題解決的学習が意識されていました。また、子どもたち同士の話し合いの場面もマークで示

してあり、子どもたちが主体的に学んでいける工夫が見られ、協同的探究学習が行われやすいと感じました。

以上です。

○委員長 私から1点。東京書籍を推しているというわけではありませんけれども、調査協議会の報告にもありますように、各学年、巻末に「算数の学習を活用しよう」があり、他教科との学習内容の関連を配慮しているという内容がありますが、どの教科にも同じことですけれども、関連した教科といろいろなつながりがあるということ意識しながら、その教科の授業を進めていくという進め方はとても大事ではないかということで、東京書籍の1つのポイントを少しお話しさせていただきました。

ほかにございますか。――それでは、投票に入ります。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

大日本図書4票、学校図書1票。以上です。

○委員長 ただいまの報告のとおり、大日本図書が4票と過半数を得ましたので、理科は大日本図書に決定いたしました。

続いて生活に入ります。まず各委員からご意見をいただきたいと思います。

○高橋委員 生活科では、子どもの生活にかかわる周り全てのことを、活動を通して学び、自分というかけがえのない存在が、いかに支えられて生きているのかを知ることができるような教科書を選びたいと思います。また生活科は、教科書で学ぶというより、具体的な活動や体験を通して学ぶ教科でありますから、教科書が余り詳し過ぎると、活動する意欲や関心が損なわれる可能性もあると思われます。活動したい、体験したいという意欲をかき立てる、そのような教科書であることが大切だと思います。

そのような観点から見ていきますと、光村図書出版と啓林館の教科書がよいと思いました。光村図書出版は、導入時の写真や絵が生き生きとして、意欲や関心を高め、授業展開も興味・関心・活動・まとめ・交流となっていて、全体的にすっきりとして、子どもにも指導者にもわかりやすいと思われます。啓林館は、地域の人とのかかわりが多く取り扱われていて、町田市教育委員会が進める学校支援ボランティア事業の取組がより生かせるのではないかと思います。

生活科で学校、地域、家庭が1つとなって子どもたちを見守り育てている現実を、子どもたちが体験的に学べることは重要だと思います。また、啓林館では、自分の成長につい

での気付きの例が数多く取り上げられていますので、子どもたちが心も体も成長している自分を実感でき、自己肯定感につながっていくのではないかと思われ、この点が大変よいと思いました。

以上です。

○岡田委員 町田市はいろいろな子どもたちがたくさんいます。人種的にも、いろいろな人種の血を受け継いでいる子どもたちも見られるので、そうした意味で、多様性のある子どもたちが写真に写っているものがないかなという観点で見えてまいりました。それから、教科書会社によっては、かなり自然観察に重きが置かれているようなものもあるのですが、そのあたりのところが、一番最初は学校生活への導入、そしてお友達とのかかわり、社会とのかかわりというところとのバランスがいいものがないかなというような観点で見えてまいりました。

ところで、今、広島で大変な災害がありまして、そこでもう一度見直したときに、災害時に関係して、防災に関しての巻末なんですけれども、コラムであったり、取り扱いがあるのが、学校図書と日本文教出版の2者です。特に日本文教出版のほうは、2ページにわたって、災害時に子どもたちがどのように行動するべきか、また交通安全についても、それぞれ2ページずつ扱いがありました。そういった意味で、今、子どもたちにとっても、まずは自分の命を守るということが大事なので、生活科でこれを扱っているというのは必要なことだと感じました。

○教育長 生活科というのは、社会や自然とのかかわりとか、いろいろな生活体験が不足している子どもたちへ、この教科によって、さまざまな気付きを促して、社会を生き抜く力を培うという目的、側面があると思います。そういう意味では、子どもたちの興味・関心を引いて、さまざまな気付きを促すような、そういう工夫が求められると思います。そういう観点で見ますと、光村図書出版の各単元の初めの写真というのは、子どもたちを引きつけて興味・関心を高めるつもりだと思いました。これは学校図書もそうですが、全体的にシンプルでわかりやすく、子どもたちの気付きを促しやすいのではないかと考えたところです。

以上です。

○井関委員 光村図書出版は、国語などでも写真や絵が好評で、生活科の教科書を見ても、1つ1つが大きく、わかりやすいものになっています。下巻の野菜づくりのページを見ますと、何を育てようという場面で、かごの中にトマト、なす、ピーマンなど、8種類の野

葉を同心円上に並べて、かごの写真の周囲にあるおのおのの種か、あるいは苗の写真と線で結んでいます。その後のページでも、細か過ぎる指示はなく、情報が過剰ではないので、児童が考え、先生もご自分の思いで指導できると思います。協議会報告書の、導入時の写真は意欲や関心を高めるという評価がうなずけます。

理数科では、いつも啓林館が他の発行者と違ってユニークな工夫をされています。今回も図鑑的な別冊を作成しています。2010年に理数教科書の国際比較をしたシンポジウムで、各国の教科書の展示を見たことがあります。フィンランドでは、4年まで環境と自然の学習です。小学校1年では、森の記述が多く、キノコ、鳥、木など、多くの写真が収録されています。そういう図鑑的なものです。これを持って朝早く授業の前に森へ行って、自然の学習ができます。

啓林館の別冊がこれに相当すると思いますが、残念ながら、収録数と厚さはずっと小さいものです。2年生では、これはフィンランドの場合ですが、140ページぐらいで、人体の構造や生物の分類をして、1年のときの図鑑も一部収録されていたと思います。啓林館では、図鑑的要素を、上巻にも自然図鑑として少し掲載されています。協議会の報告書の評価では、啓林館はちょっと不十分だと指摘されている点がありますが、私は光村図書出版か啓林館かなと思います。

以上です。

○委員長 私からですが、先ほど教育長からも、生活という教科が生まれた経緯を少し説明されましたけれども、そういう意味で、生活という教科だけで完結するものではないと思います。そういう点で、幼小連携、あるいは入門期への配慮ということが、ほとんどの教科書で配慮されていると思いますが、幼小との連携というのは、大変重要なポイントだろうと思います。

加えて、日本文教出版は、総合的な学習の時間へのつながりを意識している。あるいは大日本図書は、3年生以上の理科へのつながりを意識している。それから、教育出版では、他教科等との関連が明確である。このように、ほかの教科、あるいは幼稚園、そして3年生以上、こういうところと関連があり、広まっていくという観点で、この教科書を使えたらいいなと思います。

ほかにいかがでしょうか。――それでは、投票に入ります。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

教育出版 1 票、光村図書出版 3 票、日本文教出版 1 票。以上です。

○委員長 ただいまの報告のとおり、光村図書出版が 3 票と過半数を得ましたので、生活は光村図書出版に決定いたしました。

さて、この会場にいらっしゃる全ての皆様に連絡をさせていただきます。今、生活まで終わりましたけれども、恐らく 12 時には終了が難しいかと思えます。12 時を超えるようでしたら、12 時直前くらいに、切りのいいところで休憩をとらせていただこうと思っておりますので、あらかじめご了承ください。

それでは、続きまして、音楽に移ります。各委員からご意見をいただきます。

○井関委員 協議会の報告書の評価どおり、教育芸術社がいいと思いますが、鑑賞と歌唱の実際の授業を見て、なるほどと思いました。ある小学校の音楽の研究授業で、私にとって鑑賞に関して初めての経験をしました。鑑賞というと、先生が作曲者の経歴、その時代の背景などを説明した後、曲を聞いて、どのように感じたかを述べるというような、国語の感想文で言えば、印象批評のようなものを頭に置いていました。

しかし、教育芸術社の 6 年、30 ページにある「曲想の移り変わりを味わいながら聞きましょう」という時間で、ブラームスのハンガリー舞曲第五番を聞いています。注目することは、旋律の繰り返しや変化、速さと強さなどについて、感じたことを後で話し合うとなっています。まるで国語の分析批評です。

私が見学したのは、この音楽、ハンガリー舞曲の授業の後の授業で、次は、「曲に込められた思いを感じながら歌いましょう」のタイトルでした。歌うのは「思い出のメロディー」という歌で、前の授業で行った分析結果を活用して歌おうというわけです。このような鑑賞と歌唱を連携した授業ができるということを、教育芸術社の教科書で行っている実際を見ることができました。そういうことで教育芸術社がいいかなと思えます。

○高橋委員 音楽というものは、楽しい、歌ってみたい、演奏してみたい、聴いてみたいという子どもの興味・関心をかき立てる教科書がよいと思われます。また、町田市では小学校全校での合同音楽会があり、毎年聞きに行っていますが、音楽のレベルが年々上がっているように私は感じていますので、音楽のレベルが高いのではないかなと思われます。そういうこともあり、基礎・基本に加え、系統的・発展的学習も含まれているものを選びたいと考えます。

子どもの興味・関心をかき立てるという点では、2 者ともにそれぞれ大変工夫されていて、よく考えて作成されていると感じます。学習の内容については、協議会の報告にも

ありますが、教育芸術社は6年間の系統性が整理され、各単元も段階的に構成されているということで、音楽の力がより引き上げられ、レベルアップにつながるのではないかと思います。ということで、教育芸術社のほうが私はよいのではないかと思います。

以上です。

○岡田委員 音楽のところでは、実際には鍵盤ハーモニカとリコーダーを楽器として子どもたちが習うわけですがけれども、ここのところをつまづいて音楽嫌いになる子どももいるかと思しますので、こうした指導の上で、どちらがよいかなということでも見てみました。

両者ともにほとんど差はありません。教育出版のほうが、より実物に近い大きさの鍵盤ハーモニカが写真に扱われていたので、その点に関しては、少し練習をしやすいのではないかと思います。また、中で扱われている曲に関しては、教育芸術社のほうが、私たちの年代にもなじみのある曲が多く、難易度も比較的高い。また曲の数も多く、「花は咲く」とか、ジャズとクラシックとの出会いとか、かなり挑戦をしてみたいというような作品も中で扱われていました。どちらがよいかというところで、なかなか決めかねるところがあるのですけれども、町田市では、低学年において、担任の先生に音楽の授業をお願いしているということもありますので、余り難易度の高いものでは先生方の負担が多くなるのかなということも考えたいと思います。

○教育長 教育出版のほうは、写真や絵が大変多く、歌唱教材も数多く掲載されていますけれども、調査協議会の報告では、単元に含まれないものも載っていて、教師が指導の狙いを絞り、選択して指導する必要があるとされております。また、見開きのページが多いのも、子どもたちの取り扱いがどうなるかというのが気になるところでございます。これについて、教育芸術社のほうは、各領域の分量も適切で、1ページ当たりの情報のバランスがとれていて見やすいというふうに感じました。

以上です。

○委員長 岡田委員にちょっとお尋ねですが、先ほど私たちの年代——岡田委員の年代がどのくらいかわかりませんが、年代の者も知っているということは、小学校の音楽の教科書として、どんな意味合いを持たれたのでしょうか。

○岡田委員 そこに意味があるというよりも、オーソドックスな曲が多いなという感じがします。教育出版のほうは、非常に新しい曲だったり、子どもたちにとっても、いわゆる音楽の授業という私たちの固定観念の中から全く外れたような教材が含まれていたということ

で、大変おもしろい授業ができるかなという感じがありました。

○委員長 学年にもよりますけれども、今、私自身が葛藤しているところは、自分の年代ではない、これから子どもたちの時代を背景にして育っていくので、私たちが知らない曲、場合によってはジャンルもいろいろ展開されるということで、これからの世の中動いていくだろうなと思います。ですから、とりわけ教育出版のほうの教材が難しいだろうとは、私は感じませんし、歌唱教材が多様に掲載されているというところは評価できるのではないかと思います。

ほかにご意見ございますか。――それでは、投票に入ります。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

教育出版 2 票、教育芸術社 3 票。以上でございます。

○委員長 ただいまの報告のとおり、教育芸術社が過半数、3 票獲得いたしましたので、音楽は教育芸術社と決定いたしました。

続きまして図画工作に移ります。各委員からご意見をいただきます。いかがでしょうか。

○高橋委員 図画工作は、教科書で学ぶというよりも、子どもの頭の中にあるイメージを、自分の手を使って表現していくという活動が学びの中心であると思います。ですから、「学習のめあて」がしっかりわかり、創作のための手順や、必要な道具とその使い方がわかりやすいものがよいと思われれます。また、自分の作品へのヒントやイメージにつながるためにも、多くの作品が載っていることも大切だと思います。

このような観点で両者を見ていくと、日本文教出版は、授業題材が見開き 2 ページで載っていて、「学習のめあて」は必ず 4 つ枠を囲んで示してあり、また使う道具もマークを使って提示されていて、子どもにとっても指導者にとっても大変わかりやすくなっています。大変使いやすい教科書だと思います。また、道具の使い方は巻末に詳しくまとめて載っていますので、いつでも必要なときに見ることができます。作品の数については、両者ともにさまざまな作品が載っており、大差はないと感じました。

以上です。

○岡田委員 先ほど私が質問しました図画工作の授業での美術鑑賞の指導ということでお答えいただきました。5、6 年生において、参考として児童の制作時に見させることがあるというようなお答えでした。

中学校では系統的に美術鑑賞の時間というものがとられているのですけれども、そちら

につながるという意味では、日本文教出版のほうは、筆のタッチでどう表現しようかというところで、印象派の絵が多く取り上げられ、また口絵のところでは、風神雷神図とか龍神の屏風絵、そういった名画が取り扱われています。

それに対して開隆堂のほうは、切り口が少し現代的かなと思うのですが、写真とか建築とか、もちろん名画も扱われているのですけれども、子どもたちが実際に生活で見ているものの中に美しさというものを発見するような、そうした刺激を与えるようなところが意図されているのかなという気がいたしました。また、子どもたちの作品の数も、開隆堂のほうがたくさん掲載されているように思いました。

ただ、先ほど高橋委員からお話がありましたように、制作の作業の仕方というところでは、日本文教出版のほうで丁寧に書かれていて、版木の掘り方、粘土のこね方、道具の使い方、そうしたところがわかりやすく出ているところで、どちらがいいかなと迷っているところがございます。

○井関委員 図画工作ですが、絵の鑑賞について、岡田委員が既に触れた風神雷神図屏風は、前回の採択では3者の教科書どれにも俵屋宗達の風神雷神図屏風が載っていたのですが、開隆堂出版は、今回と同じ2ページと大きいもので、日本文教出版はやや小さく、もう1者はずっと小さかったと思います。今回は日本文教出版がやや大きく、ここでも好評だとどんどん取り入れていくのだなと感じました。索引が有効と思われる理科なども、次には全発行者が取り入れていかないかなと期待しています。

工作に関してですが、5、6年の下で道具の使い方を比較してみました。開隆堂は「道具箱」、紙面をぎっしりと詰めて2ページ、日本文教出版は「使ってみよう材料の用具」で6ページ、余裕のある紙面です。

工作をしていて、けがが多いのは、小刀やカッターだと思いますが、カッターの使い方を見ますと、開隆堂は、1、2年の下の最後に「どうぐばこ」、1.5ページ使って詳しく説明してあります。一方、日本文教出版は同じく1、2年の下巻で、私は使ったことがないので、段ボールカッターを含めて、2ページで説明しています。両者とも1、2年という小さいときから慣れさせて、理科の教科書に示してあるよりずっと詳しく取り上げてくれています。

最近では、児童の作品の著者名ばかりでなく、児童の作品ということも明示しないことが多いようです。しかし、日本文教出版の「中学校へ向かって」では、中学校の先輩の活躍ぶり、つまり、子どもたちの作品を5、6年下巻で、2ページですが、その旨、明示して

あります。以上から、図画工作は日本文教出版がいいと思います。

○委員長 私からですが、これまでそれぞれの小学校の作品発表会などを見せていただきましたが、それぞれ学校の図画工作、専科の先生が、とりわけ上級生、上学年はやられていると思いますけれども、学校によって個性があるなど感じています。恐らく図画工作担当の先生のお考えが相当出されているなどということを考えますと、余り教科書にこだわる必要はないのかな。どちらでも同じくらいかなというご意見もあるようですけれども、教科書に制約されるのではなくて、かなり図画工作の先生のご意向があらわれているなど日常的には感じております。どちらがいいかということについては、今ここでは申し上げられません。

ほかにご意見ありますでしょうか。——それでは、投票に入ります。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

開隆堂出版 2 票、日本文教出版 3 票。以上です。

○委員長 以上の報告のとおり、日本文教出版が 3 票と過半数を得ましたので、図画工作は日本文教出版と決定いたしました。

12 時少し前という時間になりましたので、先ほど皆様に予告させていただきましたとおり、ここで休憩としたいと思います。会議の前に、休憩は 1 時間とご案内いたしましたが、切りのいいところで、午後 1 時再開とさせていただきます。

それでは、ここで一旦休憩に入ります。

午前 11 時 53 分休憩

午後 1 時 00 分再開

○委員長 それでは、1 時になりましたので、再開させていただきます。

家庭について採択を進めていきたいと思います。まず各委員からのご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○高橋委員 両者ともに飲食において基礎的、基本的知識や技能が身につくような指導が、写真や図を効果的に用いながらわかりやすく示され、両者ともに大変よくできていると思います。また、学習したことを生活場面で生かせるように、具体的活動例が両者とも例示してあり、この点においても甲乙つけがなくなっています。

家庭科では、子どもも家族の一員であり、よりよい生活をしていくために、家庭の中で

子ども自身は何ができ、また家庭というものがいかに大切で、家族とともに守っていくべきものであるかを認識できるような学びをして欲しいと私は願っていますが、その観点からいくと、両者とも学べるようにはなっていますが、開隆堂のほうが、単元での取り上げ方がよりわかりやすく考えられていると思います。

家族の1日と子どもの1日が比較してあったり、家族との楽しい団らんのときを計画させ、つながりを深めることを勧めていたり、家庭の中で、実際に子どもが自分にできる仕事を行うことができるよう丁寧に導いています。家庭の中の自分をより意識でき、家庭をよりよいものにしていこうという意欲が湧くのは、開隆堂のほうがすぐれていると思います。

以上です。

○岡田委員 高橋委員のお話にありましたように、どちらもとてもいいところがたくさんありまして、全体的な部分で言えば、ほとんど差はないと感じました。強いて言うと、開隆堂のほうが、より多くの情報が入っていて、家庭で学んで欲しいいろいろなことについて、しっかりと掲載がされている。それから、それぞれの単元について、情報が十分にたくさん入っているなという感じがいたしました。

比較しまして、東京書籍のほうは、必要なことの手順がわかりやすい。逆に言うと、これはやらなければならないよということに対する手順が大きく見やすく掲載されていると感じました。また、消費者教育とか、都会で暮らす子どもの日常ということを見ると、東京書籍のほうが実生活に近いかなと思いました。首都圏にある町田市としては、東京書籍のほうがいいのではないかと、そのところで思います。

もう1つは、家庭科の専科の先生がいらっしゃらない場合に、担任の先生が担当されたときのことを考えると、東京書籍のほうが、写真などが大きい分、手順がわかりやすいかなと思います。

○井関委員 私は、家庭科は東京書籍がいいと思います。箇条書きのようですが、幾つか理由を述べます。

1番、学習の進め方はガイダンスがわかりやすい。2番目、整理整頓については8ページと余裕を持たせてある。3番目、包丁の持ち方については、左ききの人の分も大きな写真で示し、全体でも2ページ割いている。4番、総ページは129ページと、開隆堂の113ページに比べ、紙面がゆったりとしている。5番、ゆったりとしていて、情報量が多過ぎるわけではないので、児童にとっても簡単でわかりやすく、先生、特に専科の先生だと教

えやすいと思います。

最後は、今の子どもがなかなかできないという雑巾絞りですが、最後の125ページの折り返しに隠れていました。索引がないので、見落とすところでしたが、東京書籍さんにはぜひ索引をつけてもらいたいと願うところです。ねじり絞りを3枚、方向を変えて撮影していますので、合計6枚となる分解図で、丁寧に示してあります。

以上、東京書籍がいいと思った理由です。

○**教育長** これも2者択一ということで迷うところですが、開隆堂のほうが、写真が豊富で、特に調理とか裁縫などの詳細な制作手順がわかりやすいと感じました。また、郷土食とか、伝統文化に関する読み物というのが充実してまして、見開きページの食品分類表などは、子どもたちにとって、とても理解しやすいものだと感じているところです。

以上です。

○**委員長** 私からですが、先ほど岡田委員がお話しされましたように、音楽とか図画工作は、比較的専科教員が授業を進めていくと思いますけれども、家庭科につきましては、全科の教員が授業をされるところも多いかと思しますので、そういうことを踏まえて、どちらが使いやすいかという視点もお持ちの上でそれぞれ投票していただけるとありがたいなというのが私の意見です。

ほかにございますでしょうか。——それでは、投票に入ります。

(投票)

○**教育総務課長** 集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍2票、開隆堂出版3票。以上です。

○**委員長** ただいまの報告のとおり、開隆堂出版が過半数の3票を得ましたので、家庭は開隆堂出版に決定いたします。

最後に、保健に移りたいと思います。まず各委員から意見を頂戴したいと思います。どなたかお願いします。

○**高橋委員** 今日では、思春期の入り口は小学校3、4年と聞いていますから、思春期に大きく変化する心と体について、保健の授業で正しい知識を学ぶことはとても重要なことだと思っています。私は特に心の健康については、今を生きる子どもたちにとって、とても重要な学びだと思っています。心の健康についてきちんと学べ、また1回の授業で何を学ぶのかが明確でわかりやすく、また、視覚に訴える資料が豊富にある教科書を選びたいと思い、調査研究いたしました。

紙面のレイアウトがわかりやすく、1回の授業でめあてをきちんと学べるのは、学研教育みらいと東京書籍がよいと思います。両者とも、学んだことや自分の考えを教科書に書き込めるようになっており、構成もよく、資料も多く掲載され、学んだことが視覚的にも残っていくと思います。心の健康についても、両者とも、悩んだときの対処法や困ったときの相談窓口まで示されており、実際に役に立つと思います。東京書籍は、相談窓口をさらに詳しく関係機関の電話番号やアドレスまで書いてありますから、さらによいと思いました。

以上です。

○井関委員 私は、保健体育の教科書は東京書籍か学研教育みらいがいいと考えます。学校を訪問したとき、校長室や保健室の前に、歯の優秀校の表彰状を見つけますと、実際には学校歯科医の指導も大きいと思いますが、養護の先生がしっかりしているなとうれしくなります。どの教科書も虫歯は取り上げていますが、歯周病となると、少し温度差が見られます。特に、健康な歯と歯周病の歯を、写真で比較してわかりやすくしてある教科書があります。東京書籍や学研教育みらいがわかりやすいと思います。

東京書籍は、学んだことをもとに、自分で考えたことを書くようになっています。例えば学習の仕方に「学習活動・考えてみよう」というマークがあります。別のところには「学習活動・活用して深めよう」というマークがつけられています。そこで何をやるのかを見ると、学習したことをもとに、いろいろ考える問題が与えられていて、考えた結果を必ず書かせるようなスペースが教科書中に設けてあります。このようにすると、ただ考えてみようではないので、児童にとって受け入れやすいと聞いています。

以上、保健は東京書籍か学研教育みらいがいいと思います。

○岡田委員 各発行者とも保健の授業のそれぞれの单元ごとに使いやすく区切って書かれていて、内容としてはほぼ差がないと感じました。取り扱いの仕方として、学研教育みらい、大日本図書、東京書籍は、比較的小子どもたちが教科書の中に書き込んだり、その場で話し合いをして得たこと、あるいは自分が考えたことなどをそこで記入していくようなワークブック的な使い方だと思いました。

それに対して、文教社と光文書院は、むしろある程度専門知識を持った方に教えていただきながら、資料とかそういう知識的なことが多く盛り込まれているので、そうした形の授業をしていく。どちらかという、講義形式の授業で保健が行われるのであれば、文教社、光文書院が資料の量としていいかな。担任の先生と、あるいはお友達と話し合いをし

ながら保健の授業を進めていくということであれば、先ほど述べた学研教育みらい、大日本図書、東京書籍の3者から選びたいと思いました。

実際にどういった形で授業を行っているのか伺ったところ、場面に応じてどちらの形式の授業もあるということでしたけれども、全体的に保健の授業というものの特性を考えたときに、やはり子どもたちが話し合いをしたり、学び合いをしたりすることのほうが多いのではないかと思いますので、そちらのほうから選びたいと思います。

○委員長 私の意見ですが、今、岡田委員がお話ししましたように、保健の授業ということでは、いわゆる適切な知識を十分に身につけさせること以上に、健康的な生活を送っていくという子どもたちの行動変容に結びつけていく部分が多いと思うので、話し合いなど、考えさせる授業の展開が必要ではないかなと思うのですね。そういう点では、例えば大日本図書では、書き込み欄があるとか、シールがついているというのが意欲付けにつながっているのだらうと思いますけれども、いろいろ話し合いをしていく、話し合う中で、どうしたら健康的な生活ができるか考えさせる授業展開を考えて、教科書を選ぶのも1つの考え方かなと思います。

それから、委員の皆さんにちょっとお伺いしたいのですが、調査協議会の報告の中に、思春期にあらわれる変化に関連して、写真を使っている教科書がある。逆に言えば、写真を使ってない、絵であらわしているというのもある。写真かそうでないかということについて、もしご意見がありましたらお伺いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○岡田委員 私はどちらでも構わないと思います。特にそのところにこだわりはありません。今の子どもたちは情報社会の中であって、写真も目にする機会も多いでしょうし、そこがイラストになっても、どのような成長の変化があらわれるかということについては、はっきりわかるようなイラストになっているので、どちらでも構わないと思います。

○委員長 ほかの見解をお持ちの方はありますか。私、参考にさせていただきたいのですが、特にないですか。ほかにご意見などありますか。――それでは、投票に入ります。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍1票、大日本図書2票、学研教育みらい2票。以上です。

○委員長 以上の報告のとおり、過半数の3票を獲得した発行者がありませんので、大日本図書2票、学研教育みらい2票、この2者でもって再度投票を行いたいと思います。

(投票)

○教育総務課長 集計が終わりましたので、発表いたします。

大日本図書 2 票、学研教育みらい 3 票。以上です。

○委員長 ただいまの報告のとおり、学研教育みらいが過半数の 3 票を獲得しました。保健は学研教育みらいに決定いたしました。

以上で全教科についての採択結果が出ましたので、もう一度申し上げます。

国語、光村図書出版、書写、光村図書出版、社会、東京書籍、地図、帝国書院、算数、学校図書、理科、大日本図書、生活、光村図書出版、音楽、教育芸術社、図画工作、日本文教出版、家庭、開隆堂出版、保健、学研教育みらい。以上でございます。

以上で第 40 号議案の審議を終了いたします。

ここで休憩いたします。

午後 1 時 20 分休憩

午後 1 時 24 分再開

○委員長 それでは、再開いたします。

引き続き、議案第 41 号「2015 年度使用教科用図書（中学校）の採択について」を行います。教育長より説明をお願いいたします。

○教育長 それでは、議案第 41 号についてご説明を申し上げます。「2015 年度使用教科用図書（中学校）の採択について」でございます。

本件につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条及び第 14 条並びに同法施行令第 13 条及び第 14 条の規定により、2015 年度使用教科用図書を採択するものでございます。

なお、中学校の教科用図書は、同法第 14 条及び同法施行令第 14 条に規定する同一の教科用図書を採択する期間内であるため、昨年引き続き、別表の図書を採択するものでございます。

説明は以上でございます。

○委員長 これより質疑に入ります。ただいまの教育長の説明に関しまして、何かございましたらお願いいたします。

（「ありません」の声あり）

○委員長 それでは、お諮りいたします。議案第 41 号は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長 ご異議なしと認め、原案のとおり決することにいたします。

次に、議案第 42 号「2015 年度使用教科用図書（特別支援学級）の採択について」を審議いたします。

○教育長 議案第 42 号についてご説明申し上げます。「2015 年度使用教科用図書（特別支援学級）の採択について」でございます。

本件につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条及び第 14 条並びに同法施行令第 13 条及び第 14 条並びに学校教育法附則 9 条の規定により、2015 年度使用教科用図書を採択するものでございます。

なお、公立小・中学校特別支援学級教科用図書につきましては、特別支援学級設置校より報告を受け、各校の実情に即して、別表のとおり採択するものでございます。

なお、ここで 1 件、資料の訂正をお願いいたします。「2015 年度 中学校特別支援学級使用図書一覧」の資料の 13 ページでございますが、その中の 65 番「生活」の種目、ポプラ社が発行者になっておりますが、図書名は「ペーパーランド⑤ 紙はんがあそび」という項目がございます。この行について、一覧からの削除をお願いいたします。お手数をおかけいたしました。

説明は以上でございます。

○委員長 ただいまの教育長の説明に関しまして、何か質問などございましたらお願いいたします。

○岡田委員 今、削除という話がありましたが、昨年度、2014 年度からの変更点がほかにもありましたら教えてください。

○教育センター統括指導主事 昨年度採択した特別支援学級教科用図書から、小学校で 17 冊、中学校で 18 冊減らしております。理由につきましては、供給できなくなったためでございます。

以上です。

○委員長 岡田委員、よろしいでしょうか。――ほかに質問などありますでしょうか。

(「ありません」の声あり)

○委員長 それでは、お諮りいたします。議案第 42 号は原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長　ご異議なしと認め、原案のとおり決することにいたします。

以上をもちまして町田市教育委員会第2回臨時会を閉会いたします。

午後1時28分閉会